

厚生文教委員会 視察報告

★令和5年10月10日～12日

岩手大学教育学部附属中学校

「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びについて」

岩手大学教育学部附属中学校では全国に先駆けてICT教育を研究し、令和3年度には一人一台のタブレットを整備した。「まずは使ってみること」からスタートし、ガイドラインを作成して授業での有効活用のみならず、生徒会や学級などの特別活動や部活動でも活用していた。



福島県伊達市

「伊達市高子駅北地区 CCAC 構想について」



「健幸都市」の実現を目指す伊達市では高子駅北地区の開発に伴い、すべての世代の人が元気で活躍できることを目指すCCAC構想を策定し、農業・福祉・健幸を基軸とした全世代・全員活躍のコミュニティによる世代循環型のまちづくりに挑戦していた。

また、利用者が大変多い屋内型の「あそび場」や旧庁舎の一室を改築し、住民がくつろげる場を提供している「オープンスペース」を視察した。

CCAC構想…年齢や職業、障がいの有無や性差に関係なく誰もが住みたくなる、自分らしく暮らせるまちづくりを目指す構想。

茨城県守谷市

「未来の教育もりやビジョン 2023 (ニューノーマルな学校教育) について」

守谷市では、みんなが幸せになるために自己実現できる新しい学校づくり(ニューノーマルな学校教育)を目指し「未来の教育もりやビジョン2023」を策定し取り組んでいた。児童・生徒との時間をづくり、教員の働き方改革を進める、週3日5時間授業を実現。不登校対応としてタブレットによるオンライン授業も実施。タブレットの有効活用で保護者との連絡や授業改善なども進めていた。



管内視察報告

★令和5年10月25日

瑞穂第一小学校・瑞穂中学校

「授業におけるタブレットの活用について」



国のGIGAスクールの取り組みを受け、瑞穂町でも小学校、中学校共に一人一台のタブレットを令和3年度に整備した。タブレットを活用した分かりやすい授業に向けた教員の努力が垣間見えた。

★令和5年10月31日

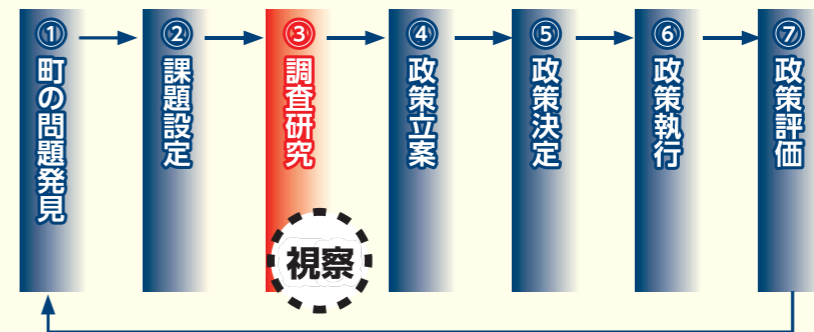
高齢者福祉センター「寿楽」

「改修が進められる寿楽の現況と改修計画について」

令和7年4月にリニューアルオープン予定の高齢者福祉センター「寿楽」を視察した。これまでの高齢者施設から五小の学童施設も併設した多世代交流施設へ移行する「寿楽」の現状を視察し、改修計画と利用方法について説明を受けた。施設の運営方法など具体的なことは、今後検討していくとのことであった。



政策形成サイクル



視察は、
③調査研究に該当します。

総務産業建設委員会 視察報告

★令和5年10月30日～11月1日

三重県伊賀市

「住民自治の取り組みについて」

伊賀市では、合併を機に自治基本条例を制定し、住民自治の仕組みとして小学校区ごとに住民自治協議会をつくった。運営には、自治会、NPO、団体、企業など、そこに住むあらゆる人が自由に参加できる。市から年間約1億2,000万円の交付金が交付され、自治協議会単位でその予算を活用して学童保育や子どもの居場所づくり、子ども食堂、高齢者の生活サポート、青色回転灯パトロールなど、地域に必要な事業を行っていた。地域の課題解決や地域振興の取り組みが、人のつながり強化に結び付いていた。



新駅建設中の現地を視察する様子

愛知県東海市

「新駅周辺等整備事業について」

東海市では、都市計画マスタープランや立地適正化計画に保健医療福祉拠点周辺地区として、「医職住」が整った「保健医療福祉拠点」にふさわしいまちの形成を図ることを位置付けている。都市計画道路の整備に伴う鉄道の高架化に合わせ、新駅の設置を求め、国庫補助を活用し、都市基盤の整備や生活サービス施設の維持・充実のための事業を進め、「保健医療福祉拠点」としての新駅周辺のまちづくりを行っていた。

愛知県幸田町

「駅を中心としたまちづくりについて」

幸田町では、新駅(相見駅)設置と土地区画整理事業によって駅を中心とした市街地形成を実現していた。駅周辺を商業地域として高度利用するため集合保留地街区を計画した結果、大規模商業施設「カメラガーデン幸田」の誘致が実現。スーパーマーケット、家電量販店、飲食店なども次々にオープンした。駅開業により一戸建て住宅建設がハイピッチで進み、駅前には高層マンションも建設され、賑わいが創出されていた。



駅の両側に建設された高層マンション